

# おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 19 号 (10 月 9 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 選手権1・2回戦何とか突破

10月5日(土)6日(日)高校サッカー選手権山形県予選の一回戦・二回戦が行われました。山東の初戦の相手は寒河江高校(@寒河江高校G)。今年の地区総体でも山形南を破り県総体の切符をつかみ(その後山南も県総体出場権を得る)、地区新人でも代表決定戦で山本を破り県新人戦行きを決めている。実際に今年のチームの試合を観たことはないものの、**関係者に聞けば聞くほど、山東と同じチームカラーのように感じる**。「とても頑張るチームだ」「カウンターでやられた」などなど。厳しい試合になることが予想されました。

さて、試合が始まると、入りは相変わらず良くない。**寒河江はシンプルに縦にボールを入れ、MFの押し上げも早く、力強いサッカーをしてくる**。MF、DFは縦に素早くボールを入れるものの、要所要所では的確な判断でパスワークを使ってくる。前線ではボールをしっかり保持したり前にボールを運ぶことのできる選手がおり、(対戦相手としては)厄介に感じられる。**山東DFは、現在(相手FWが前線に飛び出すのに合わせて)DFラインを下げるべきなのか、(そんな選手がいても無視して)DFラインの現状を維持すべきなのか、はたまたDFラインを押し上げるべきなのか、の判断ができていない<sup>1</sup>**。そのため、しばしば1人しか飛び出していない相手選手に引きずられ、DF4枚!が下がってしまい、バイタルエリア vital area と呼ばれるDFとMF間のスペースを空け(すなわち間延び)、寒河江にセカンドボールを拾われることが多い。山東押し気味なもの、カウンターから失点しないともいえない、そんな試合展開が続く。そんな中、CKのこぼれ球を押し込み、先制。**流れが良くないときのセットプレーでの得点は、特に一発勝負のトーナメントでは大切になってくる**。前半1対0。

後半も一進一退ながら山東やや優勢の試合展開。そんな中、再びCKからコウタ?が合わせて、2対0へ。山東の勝負強さ光る。と思ったら本当にその直後、簡単に中央突破を許し、失点。せっかく2点差にして意気消沈させたのに、息を吹き返させる失点となる。**得点や失点をした直後にはしっかり試合を締めなければいけないのですがね~**。甘さが出ました<sup>2</sup>。その後、前線で起用されたムンタリがスピードに乗ったドリブルから得点し、結局3対1の勝利。苦しみましたが、何とか勝利を手にする。寒河江には、山東がやりたい粘りある戦いを、逆にされてしまいました。やはり、県大会出場チームだけある! ちなみに、会場の寒河江

<sup>1</sup> その判断をするためには、現在相手が前線にボールをフィードできる状態にあるのか、の(共通)理解が必要です。たとえば、相手が後ろを向いて(前を向けずに)ボールを保持しているときには、ボールが前線に運ばれることはないわけで、そのタイミングでFWが裏に走っても無視することができる。パスの最中でボールが転がっており、誰もボールを保持していないときも、ボールが前線に出ることはないでしょう。横パスやバックパスの最中も、ラインを維持する/ラインアップするのが適当、というわけです。FWの裏への走りに毎回付き合っていると、無駄にDFラインが下がり、間延びしてしまいます。

<sup>2</sup> 単なる精神的な弛みというだけにとどまらず、CDF同士の連携の悪さとかカバリング意識の低さが原因ではありました。アカガワさんの自称「疲労骨折」により、急造CDFを起用したのですが、経験不足が出たか。

高校サッカー場で行われた第二試合は、鶴岡南対長井。**考えてみれば、その日の選手権寒河江会場は進学校が終結したことになる。**第二試合を横綱相撲で勝ち上がったのは、鶴南。そして、明日の対決も鶴南。

さて、翌6日鶴南との一戦は聖地NDグラウンド(すなわち日大山形G)。今年鶴工から異動し鶴南の監督になったT先生の恩師**田中鶴南前校長**も、前日に続き応援にいらっしやっている<sup>3</sup>。そして、**田中先生の盟友にあたる佐竹現山東校長**も会場にいらっしやっており、**恩師対決・弟子対決でもあるこの一戦**。試合の入りは山東ペース。最近前後半の入りが悪く、スロースターターの山東らしからぬ攻勢を仕掛ける。「今日は良い入りをした。今までで一番だ。今日はいけるかも。」と監督がベンチではしゃぐ。隣には、清野会長がいらっしやらなかったもので、代わりと言ったら何ですが、会場に来ていた**Y大サッカー部1年のOB〇ーツキさん(1浪)**が鎮座。監督がそんなだからでしょうか、「いけるかも」と濁しておいて幸いでした。中央へのクロスボールの目測計算が遅れたCDFとカバリングの意識の薄いSBの間に落ちるボールをそのまま独走され、GKと1対1を作られる。「あっ、やられた」と思いましたが、**GKケッツン、シュートを落ち着いて弾くビッグセーブを見せる。このプレーが大きかった!** その後も主に左サイドから攻め立てられ、苦しい展開でしたが、何とか0対0でハーフタイムへ。後藤報道局長の前半の内容の見立ては、4.5分対5.5分で鶴南でした。

後半も展開的には同じ。鶴南やや押し気味で山東もカウンターから迫る。**試合後に確認した公式スコアのシュート本数はイーブンでしたが、ビッグチャンスの数では鶴南の方が上でした。**かなり冷や冷やの連続。観ている人にとって、面白い試合というか、疲れる試合というか。試合終盤、米兵ならぬ米国(ベーコク)ことカツミ<sup>4</sup>が、バウンドするこぼれ球をそのまま打つ得意のミドルシュートを放つも、バーに嫌われ、**結局スコアレスドローでPK合戦へ。**地区新人ではケッツン大当たりでPK合戦2連戦を勝ち抜いたので、「そんなにうまいことは続かない。負けだな。」とベンチで斎藤GKコーチと話し合う。いや、**どうしてもケッツンに期待してしまうのだけれど、その気持ちを抑えないと、上がったハードルの高さでケッツンが可哀そう。**PKはキッカー圧倒的有利なわけで、ゴールされるのは仕方がない。そう原点に戻らないと、「ケッツン、何で止められないんだよ」とケッツンを責めたくなる。「そんなに簡単に止められないよ」などと自分にも周りにも言い聞かせていると、**何と鶴南の最初のキッカーをケッツンが止めてしまい(!)、山東サイド滞く。**しかし、山東の1人目もお付き合いし、その後、両チームキッカーが決め続け、10人目まで行く。やはりそんなにうまいことは続かず、ケッツンは1本目以降の当たりはなし。しかし、鶴南10人目が枠外に外し、山東の10人目の感性の男シャモジが決め、**山東PK合戦3連勝なる。そして山東、選手権3回戦進出。**苦しい試合でした。後藤報道局長の後半の内容の見立ては4分対6分で鶴南でした。

**次戦、今年選手権予選まで引退せず残った鶴南3年生のためにも、全力でシード校Y1所属の鶴工に当たります。**応援よろしくお願いします。庄内地方の宿泊施設に空きがなく、**通いで対応します!**

**10月12日(土)選手権3回戦 VS 鶴岡工業 11:00~ @酒田北港緑地公園(海側)**  
**勝つと**

**10月13日(日)選手権準々決勝 VS 山形中央と「東根工業・村山農業の合同チーム」との勝者 11:00~ @小真木原総合運動公園陸上競技場**

<sup>3</sup> 何と田中先生は、昨年鶴南の校長を退職後、4月より鶴南の非常勤講師としてお勤めされているとのこと。現職員としても、応援にいらっしやったわけです。ちなみに今野は、べにばな国体の際、スタッフの1人でいらっしやった田中先生に選手としてお世話になっております。

<sup>4</sup> 今、思いついたあだ名です。これから使用していきます。